

京田辺市歴史資料共同調査・報告会 ・市民ボランティア

東 昇

京田辺市歴史資料共同調査は、2014～2015年度地域貢献型特別研究費（ACTR）の事業であったが、2016年度京田辺市教育委員会の事業となった。今年度も昨年度と同じく、歴史資料共同調査・共同調査報告会・歴史資料整理ボランティア事業を実施した。

1. 京田辺市所蔵歴史資料の共同調査

この歴史資料の共同調査では、京田辺市に寄贈された資料の目録作成、翻刻および解題を作成した。東昇、竹中友里代（京都府立大学特任講師）の他、文化情報学ゼミの学部生、文化遺産講義受講の史学研究科院生が参加した。3年目となる今年度は、市所蔵資料の調査を月1回程度実施し近世・近代文書9件約380点を整理した。

2. 京田辺市・京都府立大学歴史資料共同調査報告会

この報告会は、2016年11月12日、京田辺市教育委員会・京都府立大学文学部主催、京田辺市社会福祉センター第1研修室で開催された（写真1）。昨年度の歴史資料共同調査の成果報告を地元の郷土史家の方々とともに報告した。

第1部調査報告では、昨年度の調査成果をもとに、松本勇介（京田辺市教育委員会）「歴史資料共同調査について」、東昇「小山捨松と京都府警」を報告した。第2部関連報告では、林正（郷土史家、京田辺市文化財保護委員会）「佐川田喜六と薪村」、竹中友里代「薪・田辺の資料からみた近代南山城の産業」を報告いただいた。当日の参加者は30人をこえ、市民の方から様々な質問や意見をいただき、今後の調査を検討する上で大変参考となった。

3. 歴史資料整理ボランティア

昨年度に引き続き今年度も歴史資料整理の方法を学びながら、資料整理に携わる市民ボランティア事業を実施した。市民へのボランティア募集のチラシが市内に広報され、京田辺市役所会議室、中央公民館研修室でおこなわれた計3回の資料整理に毎回約15人が参加した。

第1回2016年11月25日、まず東昇が写真資料の整理法について「写真資料の分析と整理」の講義をおこない、市が所蔵する大正・昭和期の写真雑誌『歴史写真』を、各人が選定しその内容について目録を作成した。第2回2016年12月16日、同じく東昇が「絵図資料の整理」の講義をおこない、参加者をグループに分けて市所蔵の近代地図の目録作成、撮影をおこなった。第3回2017年1月20日、竹中友里代氏が明治前期の京田辺・城陽地域の地図を素材に分析手法を講義した後、第2回と同様に近代地図の目録作成、撮影をおこなった（写真2）。

グループ活動や資料撮影・法量を計測するなど実技を導入したことにより、昨年度以上に参加者の主体的な活動を引き出すことができた。地域歴史調査の基本である、市民が自らの資料を、自らの手で整理していく活動を、大学の研究者がどのように参加、支援していくかを問われるものであり、このような取り組みは今後の市史編さん事業を進める上で重要なことといえる。

以上の歴史資料の調査については、来年度に2014～2016年度3年間分をまとめた報告書を刊行する計画である。また来年度以降、市史編さん事業が開始される予定であり、これまで3年間の歴史資料共同調査の成果を活かし、歴史学科全体での協力を検討している。



写真1 共同調査報告会
(2016年11月12日)



写真2 資料整理ボランティア
(2017年1月20日)